

近森リハビリテーション病院 臨床栄養部

科長 上村 二美

人事

2025 年も人の入れ替わりが多い 1 年でした。8 月に管理栄養士 1 名が退職し、その代わりに管理栄養士 1 名が近森病院より近森リハビリテーション病院へ異動となりました。

委託側のエームサービスも、栄養士 1 名が異動となり 2 名の栄養士が入職しました。さらに調理師 2 名が異動となり、その代わりに調理師 1 名が入職しました。またパート職員 8 名が入職され、4 名が退職となっています。パート職員が入職しても退職してしまう現状でパート職員の定着が課題となっています。人件費の高騰によりコストを下げる目的で、近森会の支配人 1 名体制とするために異動が多くなっています。

栄養指導

回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅲとなっていた 4 西病棟が、4 月より入院料Ⅰへ変更になりました。変更になったことで栄養指導も加算請求できるようになりました。栄養指導件数は昨年度より 60 件増加し 569 件でした。

NST

NST 活動も 23 年目となりました。オルソの体制変更に伴い、整形疾患の患者さんが増加し脳血管疾患の患者さんが減っています。脳血管疾患の中でも濃厚流動食は NST 介入となっていました。2307 食の減少しており NST 介入件数の減少につながっていると思われます。

1 年間の NST 介入件数は 287 件と前年度より 206 件少なくなっています。

VF 検査

嚥下機能の評価になる VF 検査は 287 件と前年度と同じ件数でした。

1 日平均 1.5 名の VF 検査が行われ、VF 検査の FAX の締め切り時間に関しても今年度も時間外オーダーはありませんでした。

診療報酬改定

今年は診療報酬改定はありませんでしたが、来年の診療報酬改定で臨床栄養部に関わる改定は、摂食嚥下機能回復体制加算、嚥下食が特別食加算が算定できるようになりました。積極的に加算請求するため要件をクリアできるよう各職種と検討していきたいと思っています。

まとめ

今年も昨年同様に異動や退職・入職の多い年となりました。物価高騰や委託費の高騰に対応し、徹底したコスト削減を掲げ、近森会統一の献立へ変更、予備食や予備のカトラリーの変更、朝食の選択食廃止、米(カルローズ米)の変更、委託側の人員削減などあらゆる面で今できるコスト削減に取り組みました。その結果 2026 年度は現行委託契約費を継続することができました。

26 年度の給食経営改革として取り組みを行っていきます。

目的 食事サービスの維持を図りつつ、徹底したコスト削減による持続可能な給食経営の実施

目標 常識にとらわれない給食経営改革の推進を継続し、1 年で 1500 万円の経費削減

表 1：年の主な出来事

4 月	・ 4 西病棟 回復期入院料 I へ変更 栄養指導 加算算定開始
4 月	・ 6 月朝食の選択メニュー廃止
7 月	・ 近森会統一献立開始 ・ 一口大おにぎり丸形→俵型 20g→25 g へ変更 ・ 予備のカトラリー→ディスポ食器へ変更 ・ 食事変更は翌日からの変更 ・ 予備食の変更→最低限の予備のみへ変更
12 月	・ 米変更(カルローズ米)

表 2：給食状況報告

一般食	常食	28040 食	17%
	全粥	13735 食	8%
	分粥食	0 食	0%
	濃厚流動流動食	7838 食	5%
特別食	加算	85147 食	52%
	非加算	30407 食	18%
合計		165167 食	100%

表 3：栄養指導件数

入院指導	569 件
外来指導	0 件

表 4：職員配置数

病院	管理栄養士 4 名	
給食委託業者	管理栄養士 1 名	栄養士 2 名
	調理師	3 名
	非常勤	10 名